

# 1. 三郷市の概要

## 1. 沿革

### 弥生時代後期(2・3世紀頃)

中川左岸の上彦名から土器片が採集されており、この頃から集落が形成され農耕生活が定着したと考えられています。

### 古墳時代後期(6世紀頃)

中川低地周辺の高塚から発掘された石材や埴輪から河川を通じた南北交通の要衝であったことが推定されます。

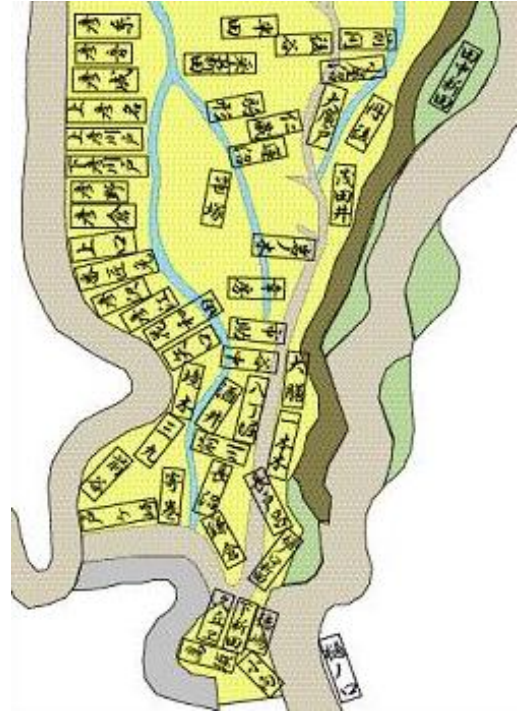
### 江戸～明治時代

三郷市域の村々は幕府の家臣団や大名が配置されることなく、一貫して御料所(天領)として属し、幕末期の市域には、51を数える村が存在しました。

明治20年の町村制度の公布により、これらの村が彦成・早稲田・戸ヶ崎・八木郷の4ヶ村に統合されました。

### 昭和時代

昭和18年の戸ヶ崎村と八木郷村の合併を経て、昭和31年の町村合併促進法により、3ヶ村が合併し、現在の三郷村が誕生しました。更に昭和39年の町制施行を経て、昭和47年5月3日県下37番目として市政が施行されました。



江戸川緑領々地図より作成  
(野田市立興風図書館蔵)

## 2. 位置と地勢

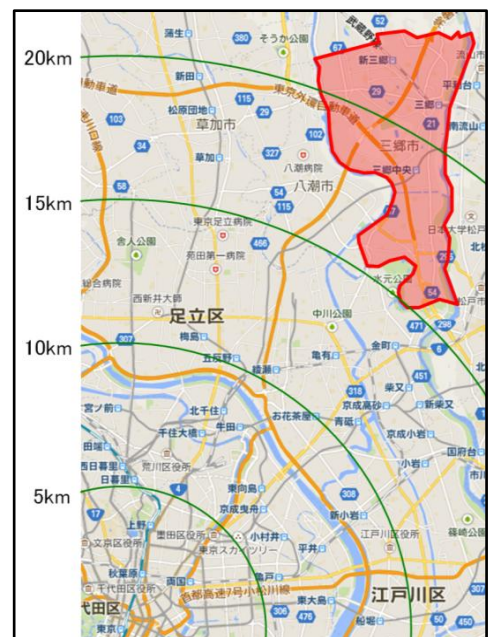
### 位置

埼玉県の東南端に位置し、東京都心から15～25kmの距離にあります。北は吉川市に接し、東は江戸川を隔てて千葉県(松戸市・流山市)に、南は小合溜井や大場川等を隔てて東京都葛飾区に、西は中川を隔てて草加市・八潮市にそれぞれ対峙しています。

### 地勢

中川と江戸川にはさまれた沖積低地(中川低地)に属し、集落は、このような河川沿いの自然堤防の上に形成され、また、その間にある低地(後背湿地)は水田として利用されてきました。

地形的には、ほぼ平坦な土地が形成されています。

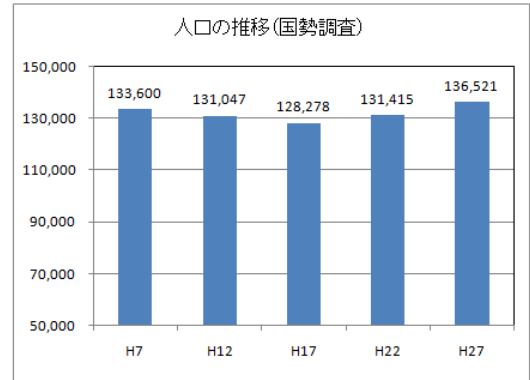


# 1. 三郷市の概要

## 3. 人口

三郷村が誕生した昭和31年当時、わずか1.7万人だった人口は、町制施行以降、首都近郊の住宅都市として増加し続け、特にみさと団地の完成などにより3.6万人の増加が見られました。

その後は、平成7年の13.3万人をピークに減少し、平成16年には13万人を割り込みましたが、平成17年につくばエクスプレスの開業によって増加に転じ、平成29年4月1日現在では約14万人となっております。

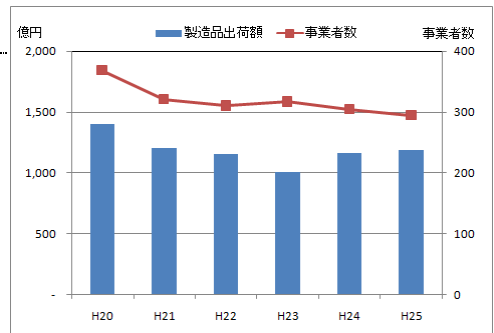


## 4. 産業

### 工業

本市の工業は、平成23年度まで、製造品出荷額等及び事業所数とも減少傾向にありましたが、製造品出荷額等は平成24年度から若干増加傾向に転じています。

今後は、交通条件の優位性や都心部からの近接性を活かし、三郷インター周辺や新三郷ららシティなどの都市基盤整備と共に、企業立地の促進や地域産業の育成が求められます。

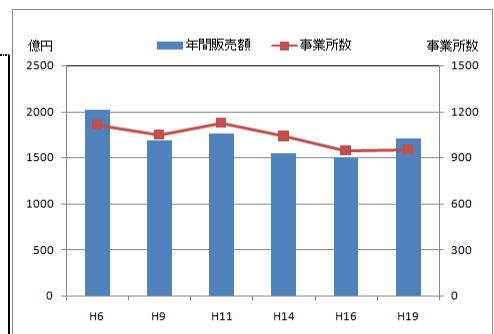


(工業統計調査より)

### 商業

本市の商業は、年間商品販売額及び商店数とも横ばいもしくは減少傾向で推移していました。

しかし、平成17年に三郷インターA地区において、ピアラシティがオープンし、平成20年から平成21年にかけて新三郷ららシティに大型商業施設がオープンするなど今後もさらなる市内商業の活性化が期待されます。

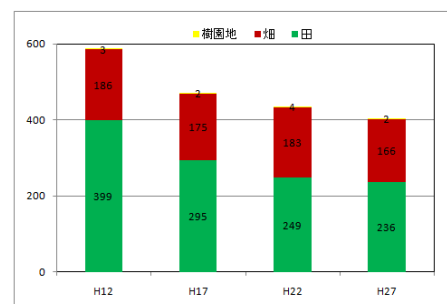


(商業統計調査より)

### 農業

本市の農業は、都市化の影響を受け、農家戸数及び耕作面積とも減少傾向にあります。耕作面積では、田の面積が畑の面積の約1.5~2倍程度となっています。

なお、小松菜・ねぎ・ほうれん草を中心とした野菜の生産額が水稲の約6.5倍となっています。



(農林業センサスより)